



「あなたのキャリアプラン実現のための福祉現場 で活躍するOB・OGとの交流会」を開催 ～同窓会幹事会、学内学会、木田賞発表会なども～

これまで「就活・全国フェア-in社大」の名称で開催していた在学生向け就職推進イベントを、今年度よりは標記に変更し、さらにグレードアップして、6月22日(土)に開催しました。道同窓会はいつも通りに、6月23日(日)にも実施しました。

22日当日、社大に集合した道同窓会の面々は、村上会長を始め総勢6人。これに、「北海道大好き人間」の某出版社のTさんも加わり、早速、設営の最終チェックを行い、準備は万端。

既に10時から、学内学会＝「社大福祉フォーラム2019」が進行中で、ここでは、記念講演、サークルセッション、自主企画及び分科会、総会等が予定されていました。

ともあれ正午から、北海道勢は、当日参加した他の県支部&関東圏SW法人とともに、就活面接を開始しました。当初こそ「去年並みだねえ」と嘆いていたものの、年度当初のガイダンスでの学生周知が効果を現したのか、どこのブースも学生の数が増えてきて、活況を呈するようになったのです。特に我が北海道コーナーは、G幹事(今回のチーフ)より生チョコの差入れがあったため、急遽「面接の人には、チョコを1ヶプレゼントします」となり、近くから椅子を借りてくる盛況ぶりとなったのでした。

なお、木村副会長、2年前から仲良しになったA君(今年、院生となる!)も様々なサポートをしてくれたのでした。アリガト、ね。

13時30分からは、学内において「同窓会幹事会」(県支部長会議)が開かれ、村上会長&高田幹事が参加しました。ここでは、議題に従って、事務局より事業、会

計などの報告、提案のほか、参加した各県から現況報告及び提案がありました。道同窓会は例年どおり、提案文を事前提出し、これに基づき「3+1事業」（社大教員、職員、学生+同窓会）の概要を説明しました。

幹事会全体としては、①教員の姿が見えない、②もっと危機意識を持って社大の将来を考えて欲しい、といった意見が各々から出されていました。

15時30分からは、今年の本田賞贈呈式（学生研究奨励賞の贈呈式も）が組まれており、この栄えある受賞者に村上会長が選ばれました。この場には瀬戸副会長等が参加しました。北海道では最近でも、木村副会長が実践賞を、佐藤先輩が文献賞を受けており、北海道の社会福祉実践のレベルの高さは誇っても良いものでしょう。

村上会長は受賞スピーチの中で、奇しくも今年が卒業50年であること、社大での思い出や石井哲夫先生のこと、卒業後の職歴とその実践のこと、そして北海道同窓会のこと、などを語りました。

社大としてはこののち、生協食堂において懇親会を催しました。

他方、我が北海道の面々は、第1日目の行事終了後、明日に備えてA棟ホールでの設営を行いこののちに清瀬駅前へと向かいました。校友室・Yさんが予約してくれた「はなの舞」も、いつの間にか充分にお馴染みとなってしまった居酒屋です。

ここには、当日要員の道同窓会員とT氏のほか、村上会長が現在勤務している老協の社大関係職員、村上会長の同期=9期生、さらにはK教授とY事務局員、院生のA君など総勢15人が参加し、酒が入るに連れて和やかな雰囲気となっていったのでした。（余談ながら、①大橋先生より「会場確保したぞ」のお声、②翌日、事務局のK氏に会ったので、昨夜の懇親会不参加について問うた処、「最終確認がなかったの、参加できませんでした」とのことであり、「はい、来年は必ず参加します！」）

翌23日は、「北海道就活フェア」第2日目を開催しました。この日は道勢4人で対応しました。

以上により、2日間での学生参加は、以下のとおりです。

①1年生5人、2年生8人、3年生4人、4年生4人、院生4人、②男性7人、女性18人、③道出身者3人、道外22人（東京が多かった）の、合計25人。

先にも書いたように、社大側の案内周知と教員一部の協力により、参加者は増大し、また学生自身もとても熱心に話を聴いてくれ、「北海道に行ってみよう」という声もありました。北海道への職場訪問や実習にあたっては、大学よりの旅費補助があることも伝えておきました。

ともあれ、フェア自体は4年目となり、とりわけ同窓会本体の主体的活動の成果が現れてきています。今後はここに、どう教員が関与していってくれるのか、が問われてくるのでしょうかねえ…。

ともあれ、大変充実した2日間でした。関係のみなさん、ありがとうございます。

就活フェアのプレゼン側に初参加して

学部58期（はるにれの里） 松川 真子

去る6月22日（土）と23日（日）に社大の学内学会と並行して開催された「就活・全国フェアin社大」と「就活・北海道フェア」について、「聴く側」から「話す側」になっての模様を報告します。

22日の「就活・全国フェアin社大」には、村上道同窓会長、瀬戸副会長、儀藤幹事、佐藤幹事、高田幹事、中央法規のTさん、それに私・松川の7名が参加しました。

22日は道同窓会だけではなく、同窓会他支部や関東圏の社会福祉法人等も出展する大規模な催しとなりました。道支部のブースは他のブースよりも広く大きいので、かなり目立ったのではないのでしょうか。

昨年は就職フェア自体の学生周知があまりなされていなかったため、参加してくれた学生が少なかったと聞いていました。しかし、今年は事前にアナウンスがなされたとのことであり、その効果なのか参加者数は全体的に多く、活気のある催しになりました。また、私の実習担当であった倉持先生が、現在担当している実習クラスの学生に「現場で働いている先輩へのインタビュー」という課題を出されたため、インタビュー目的で北海道のブースを訪問した学生もいました。仕事を通して地域との関わりや仕事のやりがい、ソーシャルワーカーの役割などを、私たちにインタビューをしてメモを取る学生の姿を観て、そ一生懸命な姿勢を感じることができました。

倉持先生や社大の早めの宣伝のお陰か、22日は計20名の学生が北海道ブースを訪問してくれました。そのうち道出身の学生は3名でした。そのうち1名は、既に関東圏での就職先が決まっていました。また他の2名は、編入生と1年生ということで、Uターンのコツや北海道で働く魅力、仕事の楽しさなど、私自身が経験したことを話すことができました。昨年フェアに参加し、この3月に卒業し、関東圏に就職した人は「3年後には北海道に戻ります」と言ってくれていました。

22日は就職フェアが終了した後、清瀬駅前のはなの舞にて反省会と村上会長の木田賞受賞のお祝いを兼ねた懇親会を開催しました。「在学中の打ち上げといえば清瀬駅のはなの舞だったな～。懐かしいな～」などと思いながら、同窓会の諸先輩の原宿時代の話や聴いたり、村上会長をお祝いしたりなど、とても楽しい時間となりました。また懇親会では、私の所属した村田ゼミの同期である老施協職員・尾崎君とも卒業式以来の再会を果たし、お互いの近況報告や仕事の話などすることができました。久々に社会人として再会したときは少し照れくささもあったものの、お互い仕事の話をしているときは「大人になったなあ…」と思ったものです。

23日は、昨年に引き続き「就活・北海道フェア」を道支部で単独開催しました。2日目も、講師の倉持先生の実習クラスの学生がインタビューをしに訪問してくれました。2日目となると私自身も少し余裕が出てきて、より具体的な話ができるようになりました。面接したみなさんは2年生のため、まだ就職については現実味がなく、3年次の現場実習を不安に思っているようでした。私の3年前の実習の記憶を引っ張

り出しながらアドバイスをしつつ、現場の楽しさを伝えることもできました。

「来年以降も何か困ったことがあれば相談させてください。」と言ってくれた学生もいたので、これからお付き合いが長くなる学生が増えるのではないのでしょうか。

引き続き、社会福祉現場と北海道の魅力を伝えていきたいなあと強く思いました。そして、私自身にとってとても有意義な2日間でした。

最後になりますが、私なりに2日間参加しての感想をまとめてみました。

1. 宣伝効果があった…

先述したとおり、就職フェア開催についてのアナウンスが早めに行われた効果で、たくさんの訪問がありました。なんと今年度最初のオリエンテーションでアナウンスしたようです。引き続き来年も学年を問わず、たくさんの学生にフェアを知ってもらえるよう社大の積極的対応をお願いしたいものです。

2. Uターン、Iターン希望が多い…

道支部だけではなく、他支部同窓会ブースを訪問する学生が多く、そのことからUターンを希望する学生は多いのではないかと思います。また最近、地域の活性化を授業で学ぶため、地方へのIターンの関心も強いのではないかと考えます。私自身、入学時から北海道へのUターンを希望していました。しかし、「遠い北海道への就活自体、何かからすれば良いのか」、「就活費用はどのくらいかかるのか」など不安要素がとても多かったのを思い出します。

そのため同窓会の方々と直接話ができ、交通費の補助など詳しい内容を聴くことができる機会は今後も学生のために必要であり、何より心強いと思います。

3. 一緒に考える機会があるのも楽しいのでは？…

私自身、在学中の4年間、学内学会のたくさんのプログラムに参加していました。中でも印象に残っているのは、この「就職フェア」と「社大卒業生であり現役の支援員と事例検討を行う」というプログラムでした。当時は、社協職員をめざしていた私です。実際にプロの施設職員と事例検討をし、生の意見を聴くという経験は、施設現場に関心を持つ良いきっかけになりました。

せっかくの「学内学会」ですので、実際に学生と支援を考えたり実践を発表したりしながら、就職について考える機会を提供できるならば、もっと学生の役に立てるのではないのでしょうか。

4. 自分の経験不足とりベンジ…

私自身まだ仕事を始めて2年目ということもあり、訪問してくれた学生のみなさんの質問に十分に答え切れていないと思います（誠意をもって対応はできました）。この反省を基に現場でさらに経験を積み、今後リベンジする機会を持ちたいと思います。

この就職フェアで就職につながった身として、訪問する学生という立場から、今回は話をする立場で参加できたことをとても嬉しく思います。これも、同窓会員のみなさんや大学関係者のみなさんのお陰だと思っています。これを機会に、今後ともさらに何とぞよろしくご指導ください。